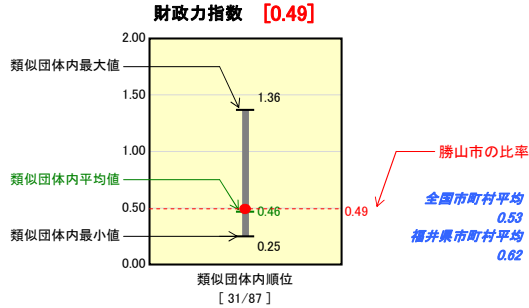


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

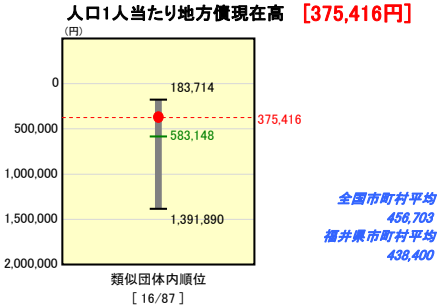
福井県 勝山市

人口	27,145	人(H19.3.31現在)
面積	253.68	km ²
歳入総額	11,459,056	千円
歳出総額	11,148,420	千円
実質収支	233,919	千円

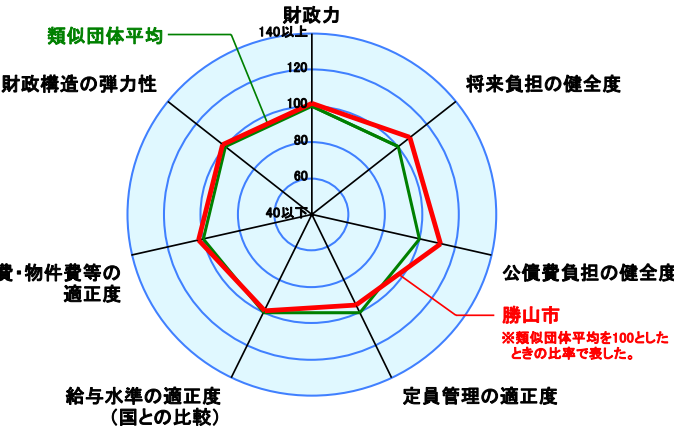
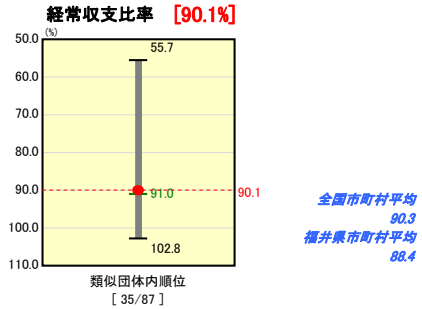
財政力



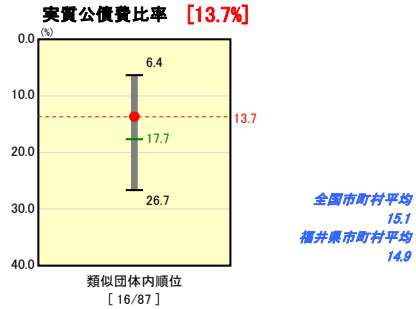
将来負担の健全度



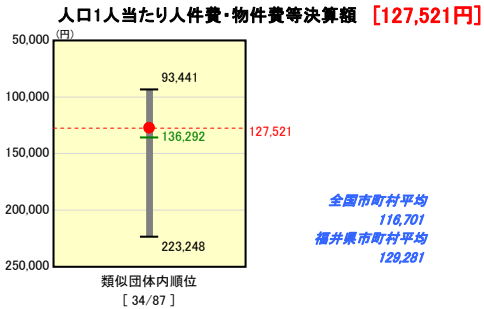
財政構造の弾力性



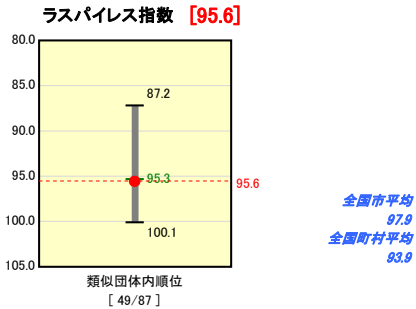
公債費負担の健全度



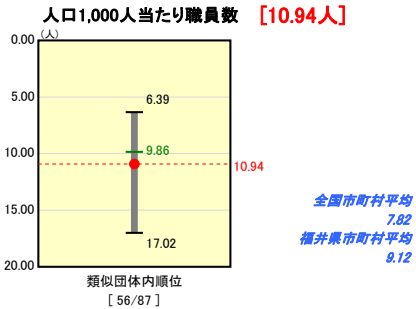
人件費・物件費等の適正度



給与水準の適正度 (国との比較)



定員管理の適正度



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

- 財政力指数
3ヶ年平均では昨年度と比較して、0.02ポイントの増となった。これは、平成18年度において法人税割の増額、所得譲与税の増額等により単年度で0.04ポイントの増となったためである。今後も地方税の徴収強化等の取組みを通じて、歳入確保に努める。
- 経常収支比率
普通交付税や臨時財政対策債等の影響により、経常一般財源総額が大幅に減額となったが、暖冬の影響から除排雪経費が大幅に減額、行政改革の推進により人件費が削減されたこと等により昨年度と比較して0.3ポイントの微増に留まった。
- 人口1人当たり人件費・物件費等決算額
昨年度までは、類似団体の平均を上回っていたが、平成18年度より2施設(温泉センター、勝山ニューホテル)で指定管理者制度を導入並びに広域行政事務組合で建設した一般廃棄物処理施設が供用開始したことにより大幅に物件費が減額となり、今年度は類似団体の平均を下回ることができた。
- ラスパイレース指数
類似団体の平均とほぼ同率となっている。今後とも国に準じた適正な給与体系を維持していく。

- 人口1人当たり地方債現在高
近年、臨時財政対策債の借入により地方債残高は増加傾向にあったが、大型事業が少なかったため昨年度に引き続き前年度を下回ることができた。今後は、人口減少等により人口1人当たり地方債残高は増えることが予想されるが、公債費負担の軽減を図るため、交付税措置のある地方債や低金利の地方債へシフトすることを基本方針とし、財政の健全化に努める。
- 実質公債費比率
準元利償還金(下水道事業)の減額により昨年度と比較して0.3ポイントの減となった。今後は、普通会計の償還ピークと広域行政事務組合において借入れた廃棄物処理施設建設事業債の償還ピークが共に平成21年度となり上昇が見込まれるため、高利率の地方債の借換等により急激な上昇を抑制する。
- 人口1人当たり職員数
類似団体の平均を上回っているが、平成16年2月に策定した行政改革大綱並びに平成17年度策定した集中改革プランに沿って、10ヶ年で職員数を52人、人件費総額を15%削減する。なお、当市では消防業務を共同処理せず、市単独で行っていることから、消防職員37人(1,000人当たり13.35人)が普通会計に計上されている。
また、職員削減の実績は、前年度比較で普通会計、特別会計を含む勝山市全体で11人となっている。